

# 新聞掲載

南海日日新聞 R5.2.18

## 島口かるたに白熱

「方言の日」、奄美の文化に親しむ 住用町・東城小

2月18日の「方言の日」を前に、奄美市住用町の東城小中学校（水井孝典校長、児童生徒28人）は17日、奄美の文化に親しむ集会を行

った。小学生19人が参加し、島口かるたに挑戦。卓剣な表情で全7句の札を取り合った。白熱した試合を繰り広げた。

方言の日は、奄美群島の方言の保存・伝承を目的に大島地区文化協会連絡協議会が2007年に制定。与論島の方言で言葉の意味する「フトゥバ」から、2月10（トウ）8（ハ）の語呂合わせとした。

同校は方言の日に合わせた集会を12年から実施しており、今年で11回目。会の冒頭では5、6年生が三味線で「東城チンタラ節」を演奏し、元気な歌声を披露した。かるたは学年ごとに分かれて試合を開始。5、6年生はことわざを上句、下句に分けた難易度の高いルールに挑戦した。児童らは知っていることわざが説

み上げられると方いっばい札に手を伸ばしていた。最後は各学年の優勝者を表彰。6年生の1位に輝いた政運さん（12）は「初めて優勝できてうれしい。島口を聞くのは少し分かるのを感じた」と語った。



白熱した試合でかるたの札を取り合う児童ら  
17日、奄美市住用町